

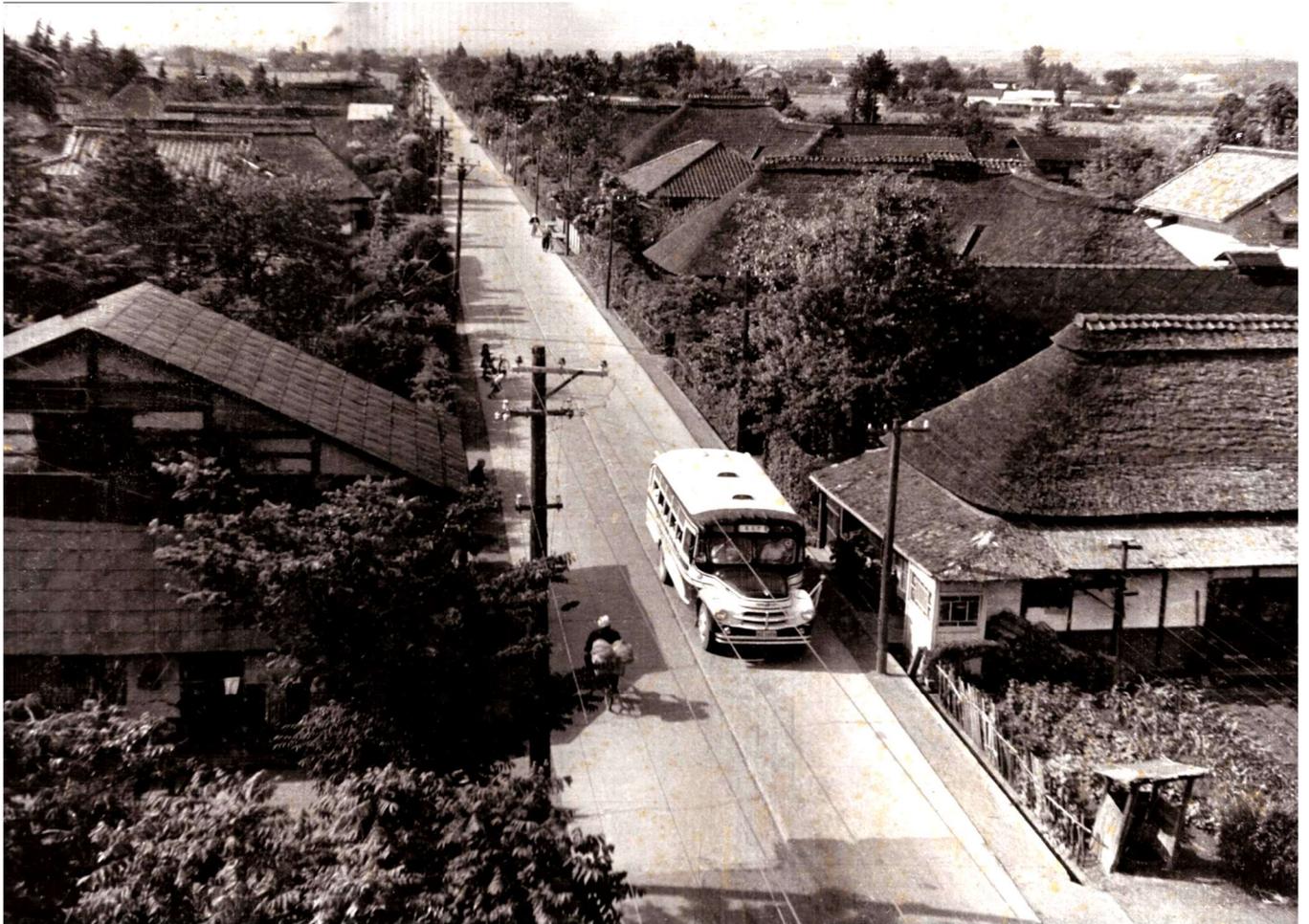
れき じん

となん歴民だより vol.14

Morioka tonan history and folklore museum

平成20年3月18日発行

発行 盛岡市都南歴史民俗資料館 盛岡市湯沢 1-1-38 TEL019-638-7228

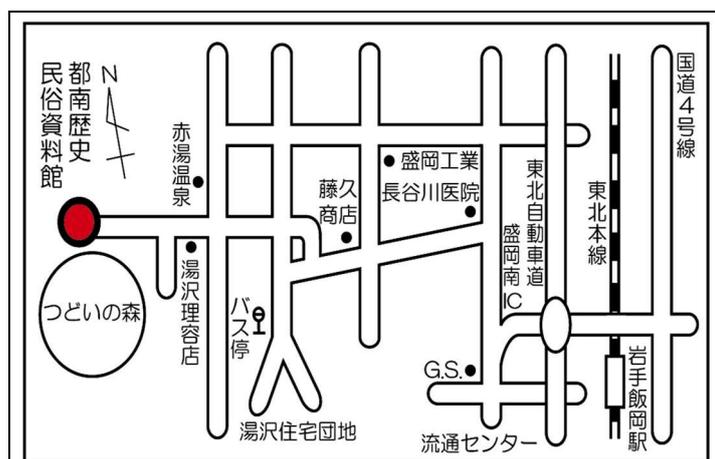


当館所蔵写真パネル 昭和20年代の国道4号線（津志田街）

— もくじ —

- ・ <特別寄稿>武者人形（五月人形）について
- ・ 資料は語る⑭
- ・ 指定文化財紹介⑭
- ・ となんの昔ばなし⑭
- ・ 平成20年度 企画展予定

MAP☆ACCESS



○利用案内

- 開館時間 午前9時から
午後4時まで
- 入館料 無 料
- 休館日 月曜日
(休日に当たるときは、
直近の平日)
年末年始

<特別寄稿>

武者人形（五月人形）について

八幡平市博物館館長 矢萩 昭二

今回は、八幡平市博物館の矢萩昭二館長から、武者人形（五月人形）について寄稿いただきました。

鎧よろいや兜かぶとは尚武しょうぶのシンボルです。武士のように力強く頼もしく、健やかに成長することを願って武者人形が飾ることが端午たんごの節句せつくの今日的意味ですが、このような考え方は比較的新しく、実際はつぎのような解釈がその背景にありました。

端午というのは月の始めの午（馬）の日をいうのですが、五月は悪い月とされ、物忌みものい（行動や飲食を慎み、心身を清めてこもること）をしなくてはなりませんでした。

その忌まわしい悪鬼あくつきを祓はらうために菖蒲しょうぶを浸し、菖蒲湯をたてたり、あるいは酒を飲んだりしました。また、家の軒先よもぎに蓬などの薬草を玉にして五色の糸で巻いたものを作って下げ、外から邪気じゃきが入ってくるのを防ぎました。

この風習は「薬狩り」といって、古代には厄除けとして五月の節句には行われていたのです。

一方、これと正反対に、悪月である五月こそ尚武（菖蒲）の心をもって振舞い、何者にも負けない強い身体を鍛えなければならないとする考えが起こりました。逆転の発想です。

この精神が武士（武者＝男子）の気風と合致して、強い心で邪気を払い、弱心こぶを鼓舞しようとする考え方に変化してきました。

その強者の象徴として神宮皇后を始め、源義経、中国の鍾馗しょうき（厄病神を追い払うという魔よけの神）など、武神や厄除の神が武者人形として選ばれ、強くたくましい男子の成長を願い今日の端午の節句の形ができ、やがて、三月三日の女子の節句「上巳の節句（ひな祭り）」と対比させ、五月人形が男子の節句「端午の節句」（五月五日）とされるようになりました。



当館所蔵の武者人形



えっこ・えんつこなど呼び名は地方によって差があります。赤ん坊を保育するカゴで稲藁いねわらなどを編んで、外側をゴザで覆っているものです。カゴの底に藁や布団などを敷き、そこに赤ん坊の足を前にして座らせ、周りを布団などで囲います。藁と布団が覆うため暖かく、赤ん坊が泣いて体を動かした時にカゴの外に落ちないようにひもで結わ

れることもありました。どの農家でも赤ん坊は、このえじこに入れられて育てられました。農繁期のうはんきには、このままで畦道あぜみちに置かれたこともあったといえます。

参考・引用資料

『米づくりと農具』 東北歴史資料館 編集兼発行 1979

盛岡市所在指定文化財紹介⑭

国指定 史跡

もりおかじょうあと
盛岡城跡

昭和12年(1937)4月17日指定 盛岡市内丸

青森県三戸町に拠点をおいていた南部信直なんぶのぶなおは、豊臣秀吉おうしゅうしおきの奥州仕置により、天正18年(1590)岩手郡などの領地7郡の領有が承認されました。

そして信直は盛岡城築城に着手し、慶長2年(1597)には起工式をしたと伝えられ、翌年の認可を受けて本格的な築城を開始しました。また、新たな街づくりを行って、盛岡藩の城下町として現在の都市基盤を整備しました。この地の「不來方こずかた」の地名を改め、「盛岡」としたのもこの頃からです。

盛岡城は北上川と中津川の合流点の丘陵につくられました。城内は、北から勘定所、三の丸、二の丸、本丸などで構成されていました。豊臣期の大坂城の構造に似ており、築城にあたって、大きな影響を受けたこ



とがわかります。

築城当初は本丸と二の丸の石垣が築かれ、次第に三の丸などの石垣も整備されました。その後石垣修理もあり、石の積み方にその変遷へんせんを知ることができます。

明治7年城内の建物は取り壊されましたが、花崗岩かこうがんを積み上げた荘重な石垣は今でも残っています。

参考資料

盛岡市教育委員会 「盛岡の文化財」 1997

『飯岡山の太岩』

飯岡山の南面の中腹ちゅうぶに大岩があります。この大岩にこんな話が伝えられています。

昔、信仰の深い村びとがおりました。ある朝、この村びとが、いつものように飯岡山のふもとに草刈りにでかけました。刈り続けているうちに、つかれたので、そばの木の切りかぶに、腰をおろして休むことにしました。腰かけて、なにげなく飯岡山を見あげて、その村びとはおどろいたのです。

いつも見ている大岩が、黒い髪の長いお姫さまとのお姫さまの前に赤い衣きぬをまとった和尚さんおしょうが手を合わせて拜んでいる姿に見えるのです。

信仰ぶかい村びとは、ありがたい仏さまの化身けしんと思い手を合わせて念仏をとなえて、ひれ伏し、それからますます信仰にはげみました。

このうわさはたちまちに村の人びとに広まり、一目拝もうと、多くの村の人々も出かけましたが、朝日の当る時間で、しかも仏さまの信仰ぶかい人にだけ、お姿が見えるということでした。

■ 出典 『となんの民話』(都南歴史民俗資料館)

平成20年度 企画展予定

市民参加展

- ・平成20年4月23日～5月25日 「ラジオいろいろ展」
- ・平成20年7月16日～8月24日 「おもちゃいろいろ展」
- ・平成20年10月8日～10月31日 「岩手の風物絵皿展」

特別企画展

- ・平成20年9月2日～30日 「匠の手仕事道具展」

※内容、時期、名称については予定です。

詳しくは「広報もりおか」に掲載予定です。また、ホームページ「ウェブもりおか」でもお知らせします。